



# The 2nd Asarigawa Sakura Contemporary Art Festival



2022 小樽市制100周年記念 協賛事業

主催 小樽・朝里のまちづくりの会

共催 (公財) 北海道文化財団

協力 新光南あじさい町会、市立小樽美術館、市立小樽美術館協力会

後援 北海道、小樽市、小樽市教育委員会、(一社) 小樽観光協会  
北海道後志総合振興局小樽建設管理部、北海道新聞小樽支社

協賛 朝里川温泉組合、おたる宏楽園、小樽・朝里クラッセホテル、(株) 阿部製麺  
(株) 大忠安藤建設、(株) イコル、(株) NSニッセイ、大高酵素(株)、小樽自動車学校  
(有) 小原興業、(医) 笠間歯科、亀田農園、(医) 木下病院、木村建築(株)、恵和工業(株)  
(医) すみえ医院、竹田電気商会、東洋化工(株)、(株) 光合金製作所、湯の花朝里殿  
(有) 北海道新聞中販売所、ワタキューセイモア(株) 北海道支店



問合せ 小樽・朝里のまちづくりの会事務局 Tel. 0134-51-2121  
〒047-0152 小樽市新光4丁目1-16 北海道新聞中販売所内  
\* 朝里川 桜咲く 現代アート展 \*  
WEBサイト <https://art.asari.cc>

第2回 朝里川 桜咲く 現代アート展  
5. 14 sat - 5. 22 sun. 2022



4月半ばになっても消えない大雪と  
 エゾシカに花芽も食べられ 枝折れもあったけど  
 桜はちゃんと咲いてくれた  
 自然相手に 勝ち負けはないのだと  
 たくさんの不安をかかえる わたしたちにも  
 桜はちゃんと咲いてくれる

雨があがったよ! さあ、開会式!  
 テープカットのファンファーレ!

5月14日(土)午前10時30分より、屋外展示会場のながら公園特設ステージ前で行われた「第2回朝里川桜咲く現代アート展」の開会式。心配した雨もあがり、昨年は出来なかったセレモニーを、ご参集いただいた皆さんと行えることは、大きな喜びでした。

来賓挨拶として迫俊哉小樽市長の祝辞を小山秀昭副市長が代読。「これまで整備を進めてきた、朝里川遊歩道の桜や紫陽花などが創り出す良好な景観の中で、現代美術に親しむ機会を提供され、地域の方々のみならず、来場される皆様の心を豊かにする、素晴らしい取り組みであると  
 考えております」とのメッセージを頂戴しました。

出展作家7名の紹介の後、当展覧会の  
 アートディレクターを務める阿部  
 典英氏より作家を代表して

「今回はそれぞれの作家が、多様な素材を使い、実験や研究を重ねて自分なりの表現を作品にしています。それらを間近に見比べることが出来る発表の場を作っていただいたことに感謝しております」と挨拶がありました。

小樽副市長小山秀昭氏、市立小樽美術館長苦名真氏、阿部典英氏、新光南あじさい町会長中一夫氏、小樽・朝里のまちづくりの会長永井邦雄氏の5名によるテープカットで、開会式を終えました。

どんな思いから作品は生まれるのか?

休憩を挟んで11時から作家自身による「アーティストトーク」を屋外作品、室内作品の順に実施。

案内役を市立小樽美術館主幹学芸員の星田七重氏がつとめ、略歴や作風の紹介をしながら、聞き役となって各作家から出品作品への思いを引き出され、作者の人物や興味深いお話を伺うことが出来ました。

第2回 朝里川 桜咲く 現代アート展  
 開会式とアーティストトーク



実録!  
 ティラノサウルス2022  
 雨にも負けず、風にも  
 …負けず?

05/01 恐竜、目覚める

渡辺行夫先生のアトリエ前庭に木枠とブルーシートに包まれた状態で2度の越冬をしたティラノサウルス。屋外展示に向けての撥水加工処理のため、覆いを外す。

ところが、3分割された恐竜の胴体部分には、なんと黒猫の親子! 母猫が逃げてしまい、一旦作業を中断して様子を見るも、まだ風も冷たいので仔猫を保護。荷解きを再開して頭部をアトリエ内に運び入れました。(仔猫は渡辺家で4時間おきの授乳を数日受けた後、動物保護団体に引き取られました。奥様にはご苦労をおかけしました)

05/12 恐竜、トラックにて移送される

撥水塗料を幾重にも吹きかける作業を施し、再び梱包された恐竜は、4トントラックで会場まで移送の手配。

ところが、運転手さんから「しっぽが長すぎて1回では積みきれない」との連絡が入り、予定を変えて2往復しての搬入となりました。臨機応変に対応して下さいました株式会社イコルさん、本当に有難うございます。



05/12~13 恐竜、ながら公園で組み立てられる

3分割されて搬入された恐竜は、ながら公園の柳の大き木を背景にして、生垣に隠した杭で尻尾を支える形で組み立て設置。本体は発泡スチロールなので、頭部も尻尾も大人4人で持ち上げられる重さではあるけど、細かな造作を傷めないように接合するのは、慎重さも必要。渡辺先生の掛け声を頼りにドッキング。

これまでの展示は室内だったので、バランス良く設計された恐竜は支えなしでも自立出来たのですが、風雨を受ける屋外展示となると、雨を吸った重みで継ぎ目が開く心配もあり、顎の下にも支柱を立てる。

その後、継ぎ目や背中羽毛(ティラノサウルスにはウロコではなく鳥類のような羽毛が生えていたという説が有力)の補修で、渡辺先生は付きっきりで作業。夜は塗装部分の養生でシートも着せました。

夜中の雨もしのいで、無事に開会式を迎え、全長8メートルの雄姿をお披露目できたのです。ところが……。





**最大瞬間風速 23.7メートル！  
突然の暴風にさらされた恐怖の3時間！**

さて、セレモニーも終わって雨もすっかり上がって、ホッとした気持ちで過ごしていたのも束の間、午後1時を過ぎた頃から、突然強風が吹き始めました。

風速8メートルを超えたらテントが飛ぶ危険が出るので、屋外スタッフが急いで撤収を始めるうちに、どんどん風は強まり、「みんなひっくり返ってる!」の報告に、室内会場にいた阿部先生と江川先生が慌てて外に、『バックネットブルース』の黒い背景紙は何処かに消え去り、『ユキミザケ』や『オヨメサンの花』が倒れ、『ドウシヨウモナイ』が芝生の上を転がっていく。

樹木に吊るしてあった鏡のオブジェは、空中ブランコさながらに激しく吹き上げられていて、ワイヤーをペンチで切って回収の強硬手段。急速、屋外会場を閉鎖する事態に。

午後1時半から4時半まで小樽市に強風注意報。窓越しに見えていた桜並木が大きくしなって、朝里川にも逆波が立つほど。後で確認したら最大瞬間風速は23メートル超え。

特設ステージの横断幕が裂け、スチール製天板まで浮き上がる状況になったため、公園に隣接する木村建築株式会社の社長がトラックを出して作業に加わって下さり、一度帰宅していたスタッフも呼び戻して、ステージを解体するのに約1時間。怪我なく済んだのは奇跡でした。

ティラノサウルスはこの突風に耐えていたものの、風向きが変わってくると横風を受けて傾きそうになったため、安全のために横倒しに。これには居合わせた男性客も手を貸して下さいました。助けて下さった皆様、本当に有難うございました。

屋外会場は翌15日昼まで閉鎖となりました。



**05/14 恐竜、倒され、ベンチで就寝**

開会式の数時間後に、恐竜が横倒しになっているとは誰が想像したでしょう。尻尾の付け根と頭の下に緩衝材の枕を挟み、尻尾はベンチで下支え、四方をロープで固定された姿は、囚われたガリバーのよう。恐竜の背中とお腹をまじまじと観察出来たのは、怪我の功名か。写真上は風も収まった14日午後6時に撮影。

**05/15 恐竜、復活**

午前10時、風速も6メートルほどに収まり、集まったホモサピエンスによって、再び起き上がるティラノサウルス。



立ち上がって周囲を見回せば、昨日片付けられた作品を修復・補強して、展示し直す作業が黙々と進められていました。なんとか昼前には屋外会場の展示再開。予想外の撤収と再設営、ご苦労さまでした。

その後、恐竜は新聞やテレビで紹介され、来場者数アップに貢献しました。近所の保育園や幼稚園からの、小さなお客様もたくさん見学に来てくれました。初日の暴風以外は、雨にもほとんどあたらず、穏やかな天候が続きました。後は最終日の撤収がスムーズであればと。ところが・・・。



**第2日目 ワークショップ開催  
ものづくりの楽しさに熱中!**

5月15日(日)午後1時より新光南会館横のテラスで、現代アート展主催のワークショップを行いました。講師は出展作家のKit\_A先生。小樽市内の中学校で美術指導もされているので、今回は美術部員の仲間たちと、一般参加者を交えての制作体験会となりました。参加総数は17名。

この日は、小樽銭函の東洋化工株式会社から提供された、ポリエチレン製パイプの廃材を使つての工作。農業や道路工事等で排水に使う暗渠パイプですが、塩ビ管よりも耐久性があるため扱いが難しく、カッティングや接合で、Kit\_A先生も試行錯誤されたそう。アシスタントのKit\_Bさんが様々な大きさのパイプの鎧を身に付けて、トレードマークの黄色いロードコーンの帽子、剣を手にした騎士姿で登場すると参加者からは大きな拍手。

Kit\_A先生からは「いろいろなパーツを組んで作品を作ってみましょう。こんなふうに繋がりたいとか、ここを曲げたいとか、かたちにしたいけれど、どうしたらそれが出来るのかを考えてみて。熱を加えたり、ノコで切ったり、穴を開けたり、針金で結んだり、道具を使うことやお手本は先生方が教えます」の説明があり、作業補助で江川光博先生と、まちづくりの会の佐々木秩さんも加わりました。

参加した子どもたちは白いパイプの中にLEDライトを入れて光らせるというアイデアを活かしながら、ライトセーバーや小物、アクセサリなどを作りました。作業しているうちにそれぞれの工夫やこだわりが深まるのか、予定時間をオーバーして午後3時に終了。みんな満足のいく作品に仕上がって嬉しそうでした。

Kit\_Bさんが装着し参加者が新しい装飾を施したパイプ人形は、屋外会場のベンチに設置し、来場者の記念撮影ポイントになっていました。

※ワークショップは当初、小樽市内の中学生を対象に事前レクチャーを行い、出来上がった作品を会場内で展示する計画でしたが、コロナ禍のため時間が取れず、Kit\_A氏に見本制作と準備をお願いして、この日の実施に至りました。ご協力に感謝いたします。有難うございました。

**05/22 恐竜、夕立を浴びる**

最終日の午後4時、バケツを引っくり返したかのような土砂降りに見舞われる。5時の閉館直後に始まる撤収作業のため、集まってきたスタッフも会館へ避難。野外イベントは最後まで油断ならぬもの。とはいえ、駆け込み見学の来場者もすっかり途絶えたので、小雨状態となった4時半過ぎに、作業を開始。

左下の写真は解体前の恐竜と苦勞を共にした渡辺先生とまちづくりの会メンバー。恐竜は次の移送先が決まるまでの間、新光南会館横に一時保管となり、人力で移動。恐竜の切り身を運ぶ原始人もかくや?



**06/23 恐竜、新しい棲家へ**

ティラノ最大のミッションは「恒久的な展示先を探すこと」でした。小樽市との協議も重ねて、小樽築港の商業施設に展示されることが決まりました。移送日にはエレベーターに入らない恐竜を3階まで階段で運ぶ苦勞も。

大変だったけど愛着もわきます。次に会う時は「この恐竜倒したことがある」と自慢しましょう。







No. 35



No. 36



No. 26



No. 29



No. 28



No. 27  
ドウショウモナイ  
半硬質ウレタン、その他  
189 x 95 x 81 cm

朝里川桜咲く現代アート展  
アートディレクター

### 阿部 典英

Abe Ten-ei

1939年札幌市生まれ。北海道札幌東高等学校で、前衛的な書の表現を模索、独学で美術を始める。1967年砂澤ピッキと阿寒に同行し、1989年死去するまで親交を深める。

- 2000 札幌芸術賞
- 2011 北海道文化賞受賞
- 2012 地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞
- 2021 北海道功労賞受賞
- 2003 阿部典英展－豊穰なる立体（札幌芸術の森美術館）
- 2009 阿部典英展 Galerie SATELLITE（フランス パリ）
- 2011 ハルカヤマ芸術要塞（小樽）
- 2012 阿部典英のすべて－工作少年イメージの深海をゆく（北海道立近代美術館）
- 心の原風景－海への回帰 阿部典英展（市立小樽美術館）
- 2016 阿部典英展－ネエ ダンナサンあるいは月・影・漂（黒龍江省美術館／中国）
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土（市立小樽美術館）
- 2021 北海道功労賞受賞記念展／阿部典英15歳の君へ（ギャラリーレタラ／札幌）



No. 01

No. 35  
オヨメサンの花  
木、アクリリック  
160 x 150 x 30 cm

No. 36  
オヨメサンの果実の木  
木、アクリリック、ステンレス  
200 x 180 x 100 cm

No. 01  
ネエダンナサン あるいは  
遠くからの祈り  
(2022年)  
ガラス、半硬質ウレタン、  
ポア、硬質ポリ塩化ビニル  
50 x 150 x 150 cm

No. 26 ユキミザケ  
木、半硬質ウレタン、他  
230 x 70 x 70 cm

No. 29 隆(B)  
60 x 122 x 106 cm

No. 28 隆(A)  
71 x 106 x 99 cm  
半硬質ウレタン、その他

## Artist Profile & Art Works



No. 01

第2回朝里川桜咲く現代アート展を終えて  
美術家 阿部典英

昨年の第1回展よりも、約350人増の、1105人もの方々に鑑賞をいただきました。これもひとえに、小樽朝里のまちづくりの会、(公財)北海道文化財団、新光南あじさい町会はじめ、多くの関係いただきました協力先、後援、協賛の賜と心から、感謝とお礼を申し上げます。有難うございます。

私たち作家7名も作品制作に、たゆまぬ努力をしておりますが、その結果として作品発表という、次の制作への心の耕しを、必要としています。さらに、鑑賞者の皆様の心の豊かさに、いさやかな、醸成を図ることや、未来を背負う、子供の多様な個性形成にも期待を込め、この様な発表の場が必要と思えます。

こんな事がありました。私は夜8時から、展示作品の確認の為に公園にいました。

すると、お父さんが男の子と共に、公園にいられたのです。『作品を見てもいいですか』とおっしゃったのです。どうぞと申し上げて、こんな夜に有難うございますと言いましたら、息子が友達から「すごい恐竜がいた」と聞いて、私の帰りを待っていて、すぐ見たいとせがんで来られたとのことでした。街灯で照らされている、恐竜に向かって走っていった男の子は「お父さんー凄いー」と叫びました。

8メートルもある、今回の渡辺行夫さんの恐竜作品を見て、図鑑で見るとは違う、実物大の迫力に圧倒されたのでしよう。

男の子は、自分が大人になったら、こんな大きな作品を作ってみたいの、あるいは恐竜研究者になりたいのかと、私自身がそんなことを考えてしまった、夜のながら公園でした。

もし、鑑賞者のたった一人でも、ほんとうにこのような人が誕生したら、大成功といえると考えています。これも今回の展示に関係していただいた、多くの皆様の力が有ったことと改めて、感謝を申し上げます。有難うございました。

No. 35  
オヨメサンの花  
撮影／佐々木 秩





上嶋 秀俊

Ueshima Hidetoshi

- 1966 小樽市生まれ
- 1991 東京造形大学造形学部デザイン学科卒業
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土(市立小樽美術館)  
鈴木吾郎と新鋭作家展〜時を紡いで〜(市立小樽美術館)  
道銀文化財団企画展 CUBE 2019 上嶋秀俊展(らいらっく・ぎゃらりい/札幌)
- 2020 上嶋秀俊展 いのちのかけら(ギャラリーレタラ/札幌)
- 2021 舞踏と美術(市立小樽美術館)  
札幌ミュージアムアートフェア(札幌芸術の森美術館)  
いつか見た光のこと 上嶋秀俊展(ギャラリーミヤシタ/札幌)

No. 02  
光の中へ  
アクリル、シナベニヤ

昨年に続き、第2回を迎えた「朝里川 桜咲く 現代アート展」に今回も参加できたことを嬉しく感じています。私は小樽で生まれ小樽で育ちました。物心ついた頃からすでに、小樽は「斜陽の町おたる」と謳われ、ノスタルジックな町の風情と重なり、過去の町という印象が強かったように思います。過去の遺産とも言える建造物や運河のおかげで一時は観光の町としても脚光は浴びましたが、人口は減りゆく一方で、町の活気も、ずいぶん昔と比較すると失われてきていると感じます。そんな中で、以前より、朝里のまちづくりの会の方々のエネルギーを近くで感じてきました。今は、まちづくりという言葉も定着し、広く一般化しています。行政も、そうしたことに力を入れていると感じますが、真のまちづくりは市民の中から生まれてくるものと思います。その先がけが小樽という町だと感じています。今後、経済のみならず小樽という町が少しでも豊かで活気がある町へと変化していくことを切に願っています。私自身も微力ではありますがアートを通して少しでも、この街の活性化の助力になればと感じております。



No. 30  
あしもどを見つめて  
(2022)  
アクリル、シナベニヤ、枝



No. 31  
BACK NET BLUES 2022  
樹脂、アルミ線  
90 x 90 cm (2枚組)

江川 光博

Egawa Mitsuhiro

- 1951年生まれ、小樽市在住  
小樽市展委員
- 2019 Wave 9(市立小樽美術館市民ギャラリー)
- 2021 EGAWA × NARUMI EXTHION 2021  
(市立小樽美術館市民ギャラリー)
- 2022 Wave 12(市立小樽美術館市民ギャラリー)

ここにに取り付けてあるのは、海岸で拾った樹脂製の漁網用浮きで、それに着色しています。樹脂素材を扱うのは初めてでしたが楽しかったです。この公園を訪れて、どこに展示しようかと考えた時に目に止まったのがこのバックネットで、この青色を活かしたいなど。ちょっと錆びた様子に、子どもたちがここで野球をして賑わった頃のことを重ねたりして『バックネットブルース』というタイトルにしました。

室内作品もそうですが、抽象的なものは先入観なしに、いろんな角度から見て「なんだろう？」というのを楽しんでいただけたらと思います。(5月14日アーティストトークより)



No. 05 INC C  
ダンボール、ミクストメディア 90 x 90 cm



No. 04 INC B  
ダンボール、ミクストメディア 90 x 90 cm



No. 03 INC A  
ダンボール、ミクストメディア 90 x 90 cm



私の仕事は、何かを表している訳ではありませんが、幼いころに見た色の記憶があります。洋裁をする母にデザインを伝え、沢山立て掛けられた中から巻生地を選び、それに合った裏地、糸、最後にボタン屋さんです。その小さな店は、天井までサンプルの付いた小箱が重ねられ、大小カラフルで、キラキラしていて、宝石箱のようで、大好きな場所でした。少なからず制作するうえで、無意識のうちに影響を受けている一つではないかと思っています。

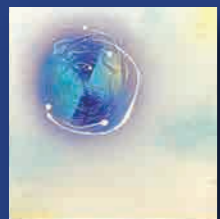
「朝里のまちづくりの会」の皆様、コロナ禍の中で暖かで、身近に感じられる展覧会に参加させて頂き、ありがとうございます。感謝申し上げます。



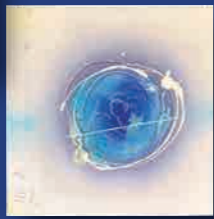
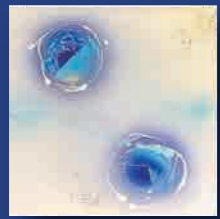
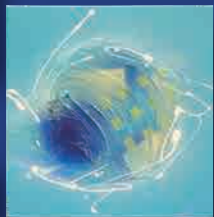
大谷 美由起  
Otani Miyuki

小樽生まれ。北海道女子短期大学工芸美術科デザイン専攻科卒業  
北海道美術協会会員、小樽美術協会会員  
2007年北海道美術協会展友賞

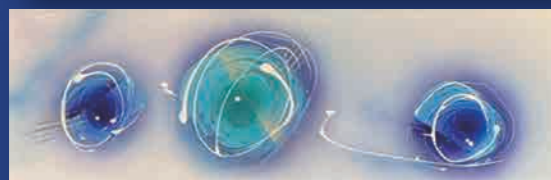
- 1990 大谷美由起個展(大同ギャラリー/札幌)
- 1999 道展新鋭作家展(大丸藤井スカイホール/札幌)
- 2010~20 wave展(市立小樽美術館市民ギャラリー)
- 2015 道展90周年記念企画展(北海道近代美術館/札幌)
- 2021 4人展/明日への歩み展(丸彦アートスペース和/札幌)



No. 09 40 x 40 cm (5枚組)



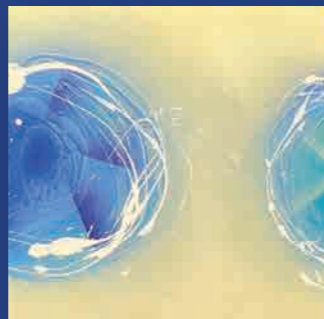
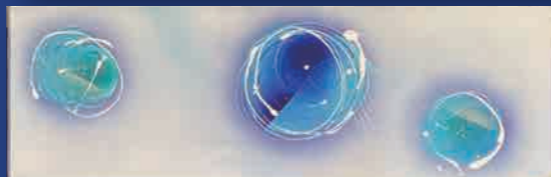
No. 06 ~ No. 10  
collection  
キャンバスにアクリル、  
エアブラシ、手彩色



No. 10 90 x 30 cm (3枚組)

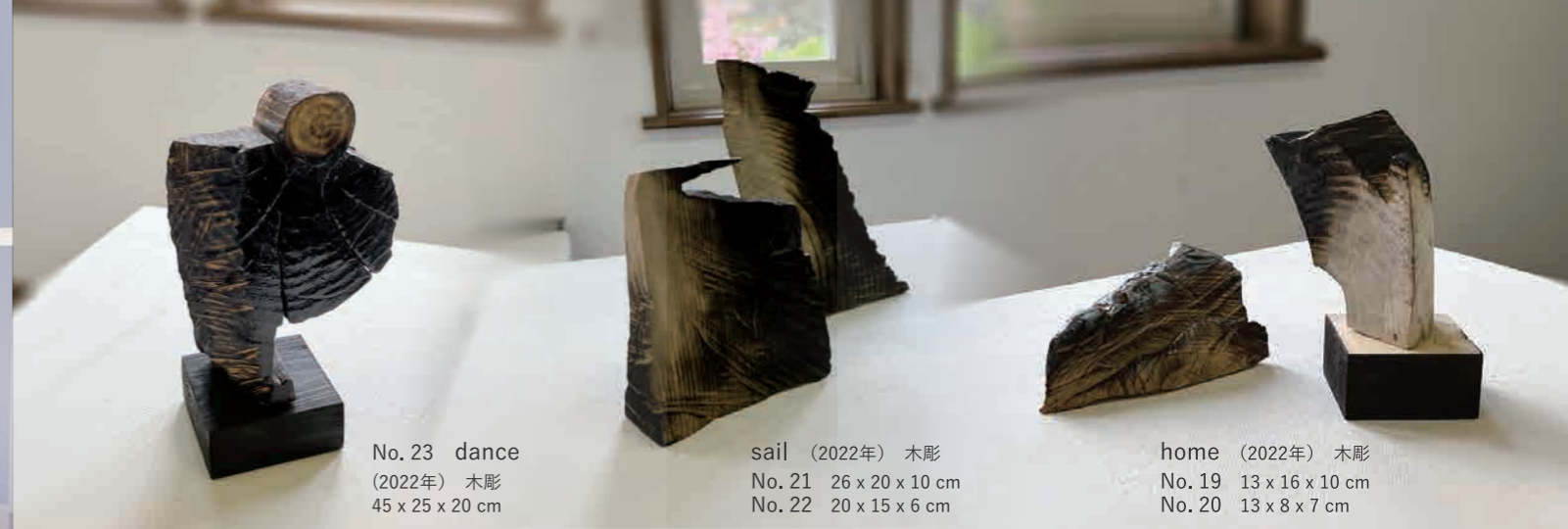


No. 08 90 x 30 cm (3枚組)



No. 07 53 x 53 x 6 cm (2枚組)

No. 06 97 x 52 cm



No. 23 dance  
(2022年) 木彫  
45 x 25 x 20 cm

sail (2022年) 木彫  
No. 21 26 x 20 x 10 cm  
No. 22 20 x 15 x 6 cm

home (2022年) 木彫  
No. 19 13 x 16 x 10 cm  
No. 20 13 x 8 x 7 cm



No. 18 沈  
木彫 40 x 15 x 7 cm



No. 16 雷魚  
木彫 45 x 25 x 20 cm



No. 17 遠景  
木彫 45 x 15 x 20 cm

この度は個人の諸事情で、屋外作品を発表できませんでしたが、あれこれ構想する機会をいただきました。また、先輩方々の様々な表現に大変刺激を受け勉強になりました。近年は木彫中心に制作しようと思い、小樽にアトリエを構えたご縁でアート展にお誘いいただきました。できれば今後は、小樽の木材や人々との出会いを中心に作品を制作して行ければ、と勝手ながら思っております。今回の作品は木や炎の自然の力、造形に畏敬の念を抱きなるべく元の姿を残すよう制作したものです。小さな作品ですが朝里川の桜を背景に発表でき幸いです。ありがとうございます。

福江 悦子  
Fukue Etsuko

- 旭川生まれ。
- 北海道教育大釧路科目履修生として彫刻を学ぶ
- 2002 真宗大谷派僧侶となる
- 2015 札幌に移住、Bar & gallery 卍 開店
- 2013 釧路美術協会展NHK釧路放送局長賞
- 2017 北海道美術協会展友賞
- 2021 福江悦子彫刻展「I had revelation in a dream」(TOOVカフェ/札幌)
- 福江悦子彫刻展「I'm home!」(旭川市民ギャラリー蔵井夢)
- 「舞踏に魅せられた美術家たち」招待作家として出品(市立小樽美術館)







No. 34 踊り木  
150 x 200 x 150 cm



No. 24 乖離する意識  
160 x 100 x 40 cm



No. 25  
乖離する3人  
100 x 70 x 70 cm  
(3個組)

No. 33  
ティラノサウルス  
大イタドリ、金属骨組み  
発泡スチロール  
330 x 800 x 180 cm



渡辺 行夫  
Watanabe Ikuo

今回展示した作品は、オオイタドリの茎を粉碎し、木工用ボンドを混ぜて塗り固めたもの。朝里川周辺にも生い茂っていて遊歩道の草刈りに苦勞されている皆さんは、身近な素材と知って興味を持って見てくださった。自分でも試してみたいという方がいれば、ワークショップもできます。ティラノサウルスは大きすぎて、荷解き、運搬、組み立て後に、また解体し持ち帰って保管することを考えると腰が重かったが、自然の中に置いて、楽しんでもらえて良かったし、新しい収蔵先が見つかったことにもホッとしている。現場で屋外展示の苦勞を分かち合った皆さんには大いに感謝しています。地元という意識は薄かったのですが、私はやはり小樽の住民ですね。来年の朝里は頑張ります。

1950年紋別市生まれ。金沢市立美術工芸大学彫刻科卒業、同大学研究科終了。札幌市教諭退職。現在、小樽市在住。  
第6回ヘンリームア大賞展 箱根彫刻の森美術館賞、第6回本郷新賞石の彫刻国際シンポジウム賞、第17回KAJIMA彫刻コンクール銀賞  
2011 ハルカヤマ芸術要塞／実行委員長  
2017 渡辺行夫イタドリ彫刻展(ギャラリーレタラ／札幌)  
2019 CROSSROADS(スウェーデン) 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土(市立小樽美術館)  
2020 渡辺行夫の乖離する知覚の意味づけ展(北海道銀行本店／札幌) ベニザクラパーク・アートアンニアル(紅桜公園／札幌)



No. 32 「Comicative 2022 ～Is War Inevitable?～」 2022年の MANGA

### Kit\_A

- 1966年蘭越町生まれ。小樽潮陵高等学校卒業 北海道教育大学大学院教育学研究科修了
- 2015 JRタワー ARTBOX AWARD グランプリ
- 2017 第6回札幌500m美術館賞グランプリ受賞
- 2016 Around The Roadcones (JRタワーArtBox、ギャラリー犬養／札幌)
- 2019 小樽・美術家の現在シリーズ テーマ展 風土(市立小樽美術館) 鈴木吾郎と新鋭作家展～時を紡いで～(市立小樽美術館)
- 2020 Who melted Roadcones? ～それを溶かしたのは誰? (ギャラリーミヤシタ／札幌)
- 2021 Plastic Flowers (FABULOUS／札幌)

溶かしたロードコーンを素材としたこれらの作品は、危険物と知らずに未来人が掘り起こしてしまった、現代の人類が地中に埋めた放射線物質のイメージです。この紫の布と木箱は、美術家・荒川修作(1936～2010)の棺桶型のオブジェ『死なないための葬送』を模したもので、タイトルもそれに倣いました。

作品を見ることで安らぎを得たり、心を落ち着かせることができるのもアートですが、強いメッセージを打ち出したり、感情を逆なですることができるのもアートの力ではないかと考えます。鏡を使った屋外作品も同様で、私達の日常の風景に映り込む戦争の恐怖、核使用による人類の終末への緊張感と不安を作品にしました。(5月14日アーティストトークより)



No. 11 (手前)  
No. 12 ~ No. 15 (壁面左から)  
「殺さないための葬送」、  
または「核を捨てよ、地球(そと)を見よう」  
No Nuclear !! No to WAR !!!  
(5点組) 2017\_2022年



# SCRAP BOOK



▲ 5月13日(金)北海道新聞朝刊・小樽後志版



▲ 5月16日(月)北海道新聞朝刊・小樽後志版



▲ 6月9日(木)北海道新聞朝刊・総合面「発信・地域から」



▲ 5月17日(火)UHBテレビ「みんテレ」



▲ 5月18日(水)読売新聞



5月21日と22日は、新光南あじさい町会の主催で、子どもたちが自由に落書きや積み木遊びを楽しめる「あじさい広場」がオープンし、ちびっこたちで大賑わい。テラスでは野点も行われました。21日には地元出身の歌手・叶やよいさんのステージもあり、多くのファンが熱心に聴き入りました。また会館2階に新設された図書室も大変好評でした。

## あじさい広場と歌謡ステージ



**心満たした「身近なアート」**  
 アルバイト 松島 幸和 72  
 (札幌市中央区)  
 昨年来気になっていた、小樽・朝里の現代アート展(22日まで)に行ってきた。陽気に誘われ、コロナ下のちよとした気分転換であった。展覧会は、公園と隣接する地域の会館で開かれていた。  
 八重桜を見、すぐそばの川の音を聞きながら散策。大木をバックにした巨大な恐竜のオブジェや、低木の若葉に隠れるようにたたずむ作品が印象的であった。小樽・朝里の現代アート展の裏手の広場から歌の響き、女性が町内会の歌を歌ったり、手話を交えて歌ったりとアットホームな雰囲気である。そばにいる人が「地域の歌手」と言う。展覧会には別物かもしれないが、歌が好きな妻はもとより、私もちょっと得をした気分であった。主催者は、近隣の住民でつくるまちづくりの会のことだ。身近な公園や会館という舞台、アートを通して近隣の住民を結びつける演出。「身近な文化の薫りがいい」。そんなことを感じた私は、満ち足りた気分を帰路に就いた。

こんにちは。今日、朝里川桜咲く現代アート展を見に行ってきました。北海道新聞に恐竜さんの写真が出ているのを見つけて、これは渡辺さんの！と思い、出かけました。エゾハルゼミの鳴き声と川のせせらぎが聞こえる中でのアート展、とっても素敵だと思います。すごく楽しめました。あの環境の中で、恐竜さんもなんだか気持ちよさそうに見えました。ペニザクラ公園にいた時も存在感がありましたが、今日は今にも動き出しそうな雰囲気でした。  
 私が行ったのはお昼前だったのですが、お子さん連れの家族や、高齢のご夫婦らしき方々がたくさんいらっやあって賑やかでした。地元住民みんなで開催している感じがまたいいなと思いました。洒落たギャラリーもよいですが、こういうアート展もほんとに素敵です。とてもよい気分の一日となりました。どうもありがとうございました。

(札幌市のお客様からのメールより)

▲ 5月31日(火)北海道新聞朝刊「読者の声」





「麗しのサンキャッチャー」  
中 美紀子

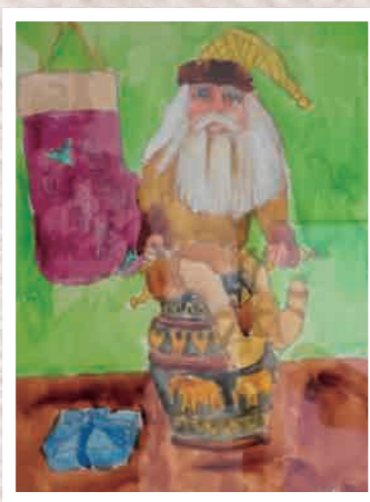
巷の巨匠展  
第二章

新光南あじさい町会の自主企画として、地域住民のアート作品を紹介する「巷の巨匠展・第二章」が、現代アート展屋内会場の別室で開催、18名による絵画、書画、絵手紙、手芸、工芸、生花など多彩な作品が並び、好評を博した。

※この図録には作品の一部を掲載します。画像には映り込みもあり、一部トリミングを行っている事をご了承下さい。



「天宙愛光 WATASHITACHI」  
中 一夫

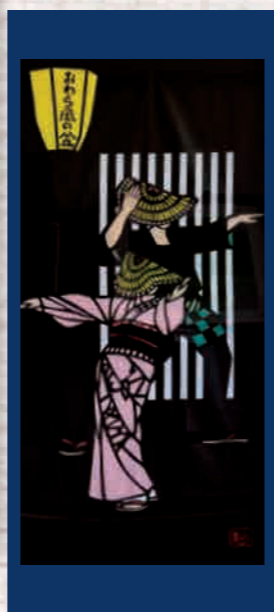


「くるみ割り人形」伊藤 剛

「タペストリー」  
高橋 幸子



タペストリー  
「おわら風の盆」  
一條 舞



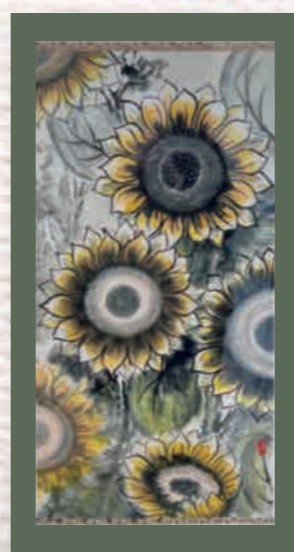
「緑色の工場」佐々木 秩



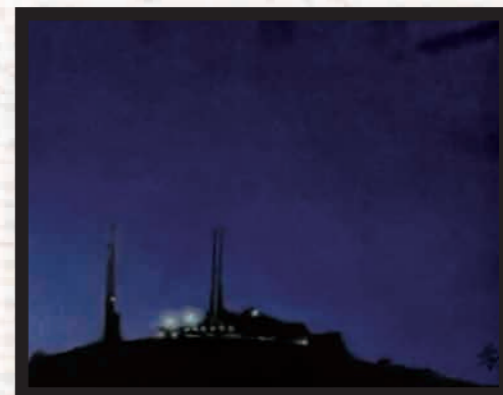
「燕飛」松本 重子



「ひまわり」石川 みち



「睡蓮のある風景」前川 仁



「函館山」佐々木 孝昭



「霜降」山田 多恵子



「小原流」竹内 豊柚

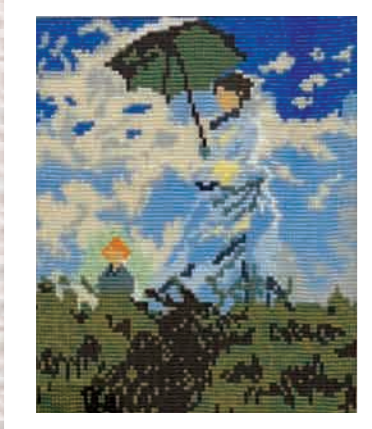
「フルイドアート」金子 富子



「絵手紙」齊 順子



モネ「日傘の女」より  
ビーズ織物 大友 桂子



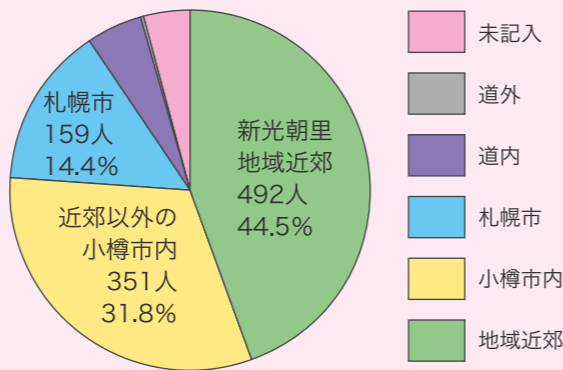


来場者アンケート集計結果

5月14日から22日の9日間で、屋内展示会場への来場者総数は、前年より5割増しの1105人でした。※屋外会場の来場者数はカウントしていないので含まず。

来場者の居住地内訳は、新光・朝里・望洋台・桜・朝里川温泉などの近隣からが492人、それ以外の小樽市内からが351人で、札幌市から159人、道内56人、道外3人、未記入44人でした。

以下はアンケートに回答があった59人分の集計結果です。



Q 1. 年齢

70歳以上	14
60歳代	12
50歳代	14
40歳代	11
30歳代	1
20歳代	0
10歳代	5
10歳未満	2

Q 2. お住まい

近郊	26
市内	20
札幌市	8
道内	5

Q 3. 展覧会を何で知ったか

SNS	8
看板	3
新聞	14
知人	28
チラシ	17
テレビ	1
その他	5

Q 4. 展覧会の満足度

大変満足	28
満足	19
普通	10
不満	2
大いに不満	0

Q 5. 次回も参加したいか

したい	48
わからない	6
しない	5

Q 6. 今回の現代アート展に対してご意見・ご要望など (41回答から抜粋)

- ・作品そのものだけでなく、緑と自然あふれる公園そのものがアートです!!! (70歳以上/市内)
- ・恐竜がすごく大きくて楽しかったです。(10歳代/近郊)
- ・風が強くて野原の展示が倒れたりして大変だった。室内は彫刻は分かるものの、これは何?と思うものもあった。新しいものにふれ、良かった。(70歳以上/市内)
- ・阿部さん、渡辺さん、今後もこのアート展続けて下さい (50歳代/市内)
- ・ワークショップなどもあって、子どもと一緒に気軽に楽しめる場でした。(40歳代/札幌市)
- ・身近にアートにふれて、とても楽しかったです。皆さん、ありがとうございます。(40歳代/近郊)
- ・中学生でもおもしろく楽しめる作品ばかりでした。(10歳代/近郊)
- ・大谷美由起さんの「collection」がとても好きでした!どれも世界観が素敵です。(40歳代/市内)
- ・昨年とは又ちがう、すばらしい作品ばかり。公園の恐竜はびっくりでした。(70歳以上/近郊)
- ・ティラノザウルスをもっと緑に映えるようにしてほしいかった。固定の仕方が残念。(40歳代/市内)
- ・江川さんの作品はいろいろな角度から見るととてもおもしろいです。(60歳代/近郊)
- ・種々多様な作品があり楽しめました。図書館もとてもステキでした。(70歳以上/近郊)
- ・外の展示はあまりないので、室内は楽しかった。(50歳代/道内)
- ・昨年に続き、今年も開催されると知った時はとても嬉しく思いました。見ごたえのある展示物の数々、準備など大変だったと思います。関係者の皆様、ありがとうございました。(50歳代/近郊)
- ・受付の方に大変、親切にしてくださいました。感謝いたします。この様な自然の中でのイベントを数多く、皆が楽しめるイベントをこれからも宜しくお願いします。(50歳代/市内)
- ・もう少し沢山あれば良かったと思います。むずかしいアートで説明もあればと思いました。めずらしい作品ありがとうございました。(70歳以上/近郊)
- ・密度の高い作品が多く展示されています。よかったです。(60歳代/札幌市)
- ・すばらしい景色の中でのアート展、リフレッシュできました。(70歳以上/市内)
- ・地域でアート作品が見られることがまずないので、良い機会だと思うとともに、開催するための地域の皆さんのご尽力に敬服しました。(50歳代/市内)
- ・昨年も来て2回目。とてもすばらしい作品ばかりでした。手作りのランタン、サンキャッチャーを作りたいと思いました。ワークショップがあれば嬉しいです。(50歳代/近郊)
- ・絵手紙がよかった。(60歳代/近郊)
- ・外の展示の雑草をきちんと刈ってからの展示がよいと思いました(あえて自然のままとの意図もあるとは思いますが) (50歳代/市内)
- ・恐竜の作品はインパクトがありました。作品の中に大イタドリなどの植物が入っており、作り方に興味を持ちました。作り方が簡単に書いてあるとイメージがわかりやすいです。(40歳代/近郊)
- ・わたしはかざってあるビーズがすてきだと思いました。なので、今日、ビーズをかけて、おうちでもつくってみたいと思います。今日はとてもたのしかったです。(10歳未満/札幌市)
- ・昨年来れなかったで、見るできてうれしかったです。続けていってくれることをぜひお願いします。来年は孫を連れて来たいと思います。(50歳代/道内)
- ・楽しい!出品者が楽しそうなのは良いことです! (50歳代/札幌市)
- ・市内近郊で考えられない事。来年も期待してます! (60歳代/近郊)
- ・collectionがキレイでかわいかったです。色の組み合わせがとてもすてきでした。(10歳代/市内)
- ・彫刻など立体作品をこれから学びたいと考えているので、勉強になりました。(10歳代/市内)
- ・とても素敵なアート展だと思います。地域の住民の皆さんと開催している感じもとてもいいと思います。また見に来たいです。(50歳代/札幌市)
- ・阿部さんの作品が不思議で色々考えて楽しかったです。渡辺さん作品の顔、3人のが興味深かったです。(40歳代/近郊)

番号	【室内展示】 作品名	作家名	制作年	素材・技法	寸法 (cm)	掲載頁
1	ネェダンナサン あるいは 遠くからの祈り	阿部 典英	2022	ガラス、半硬質ウレタン、ポア 硬質ポリ塩化ビニル	50 x 150 x 150	6
2	光の中へ	上嶋 秀俊	2021	アクリル、シナベニヤ		8
3	INC A	江川 光博	2019	ダンボール、ミクストメディア	90 x 90	9
4	INC B	江川 光博	2019	ダンボール、ミクストメディア	90 x 90	9
5	INC C	江川 光博	2019	ダンボール、ミクストメディア	90 x 90	9
6	collection	大谷 美由起	2020	キャンバスにアクリル、エアブラシ、手彩色	97 x 52	10
7	collection	大谷 美由起	2010	キャンバスにアクリル、エアブラシ、手彩色	53 x 53 x 6 (2枚組)	10
8	collection	大谷 美由起	2012	キャンバスにアクリル、エアブラシ、手彩色	90 x 30 (3枚組)	10
9	collection	大谷 美由起	2020	キャンバスにアクリル、エアブラシ、手彩色	40 x 40 (5枚組)	10
10	collection	大谷 美由起	2012	キャンバスにアクリル、エアブラシ、手彩色	90 x 30 (3枚組)	10
11	「殺さないための葬送」、 または「核を捨てよ、 地球(そと)を見よう」	Kit_A	2017_2022	ロードコーン (三角コーン、パイロン) セメント、布、木材、断熱材、その他 (5点組)	100 x 150 x 150	13
12		Kit_A	2017_2022		75 x 75	13
13		Kit_A	2017_2022		55 x 55	13
14	No Nuclear !! No to WAR !!!	Kit_A	2017_2022		55 x 55	13
15		Kit_A	2017_2022		55 x 55	13
16	雷魚	福江 悦子	2021	木彫	45 x 25 x 20	11
17	遠景	福江 悦子	2020	木彫	45 x 15 x 20	11
18	沈	福江 悦子	2021	木彫	40 x 15 x 7	11
19	home	福江 悦子	2022	木彫	13 x 16 x 10	11
20	home	福江 悦子	2022	木彫	13 x 8 x 7	11
21	sail	福江 悦子	2022	木彫	26 x 20 x 10	11
22	sail	福江 悦子	2022	木彫	20 x 15 x 6	11
23	dance	福江 悦子	2022	木彫	24 x 15 x 10	11
24	乖離する意識	渡辺 行夫	2021	大イタドリ、発泡スチロール	160 x 100 x 40	12
25	乖離する3人	渡辺 行夫	2021	大イタドリ、発泡スチロール	100 x 70 x 70 (3個組)	12

番号	【屋外展示】 作品名	作家名	制作年	素材・技法	寸法 (cm)	掲載頁
26	ユキミザケ	阿部 典英	1982・2011	木、半硬質ウレタン、他	230 x 70 x 70	6
27	ドウショウモナイ	阿部 典英	1981・2003	半硬質ウレタン、その他	189 x 95 x 81	7
28	隆 (A)	阿部 典英	1973・2016	半硬質ウレタン、その他	71 x 106 x 99	6
29	隆 (B)	阿部 典英	1973・2016	半硬質ウレタン、その他	60 x 122 x 106	6
30	あしもとを見つめて	上嶋 秀俊	2022	アクリル、シナベニヤ、枝		8, 20
31	BACK NET BLUES 2022	江川 光博	2022	樹脂、アルミ線	90 x 90 (2枚組)	9
32	「Comicative 2022 ~Is War Inevitable?~」 2022年のMANGA	Kit_A	2017_2022	アクリルミラーにインクジェットプリント 木材、石膏、シリコンポリマー、その他		13
33	ティラノザウルス	渡辺 行夫	2019	大イタドリ、発泡スチロール、金属骨組み	330 x 800 x 180	12
34	踊り木	渡辺 行夫	2021	大イタドリ、桐木、発泡スチロール	150 x 200 x 150	12
35	オヨメサンの花	阿部 典英	2019	木、アクリリック	160 x 150 x 30	6, 7
36	オヨメサンの果実の木	阿部 典英	2019	木、アクリリック、ステンレス	200 x 180 x 100	6

※寸法は、平面：縦 x 横cm、  
立体：高さ x 幅 x 奥行cm で記載



◀ 2022年度 現代アート展  
ポスター・チラシ デザイン

「第2回 朝里川 桜咲く 現代アート展」  
図 録

- 発行日 2022年 8月 8日
- 発行人 永井 邦雄
- 発行所 小樽・朝里のまちづくりの会  
北海道小樽市新光4-1-16  
北海道新聞販売所  
Tel. 0134-51-2121
- 編集・写真撮影 高野 るみ、佐々木 稜
- 表紙と夜間撮影 佐々木 稜